



関 礼子

①人と自然

②川から陸へ

③視線が交錯する原風景としての川

④川での用事

⑤切れた関係

⑥引き継がれる関係

⑦おわりに

【論文要旨】

本稿は、新潟県阿賀野川流域の千唐仁集落で、人びとが阿賀野川と紡いできた関係性の変化に着目して、以下の二点を明らかにする。第一は、生活様式の変化による川との「疎遠」、新潟水俣病などを契機とした川との「分断」が、人びとと川との関係性を弱めてゆく過程についてである。第二は、それにもかかわらず、盆の「川送り」のように、今まで引き継がれてきた関係性があるという点である。

だが、後者についても、ゴミ問題との絡みで関係性の持続が難しくなる兆しがある。本稿では、切れた関係を参照しつつ人と川との新たな関係性を創出する「仕掛け」を考えるだけでなく、引き継がれている関係を肯定するような「仕組み」の必要性を指摘する。